

日本史を勉強していくために

高橋邦幸

はじめに

- ▶ 4年間日本史を勉強していくために、知っておくと良いことを述べていく。

1. 史料集の見方

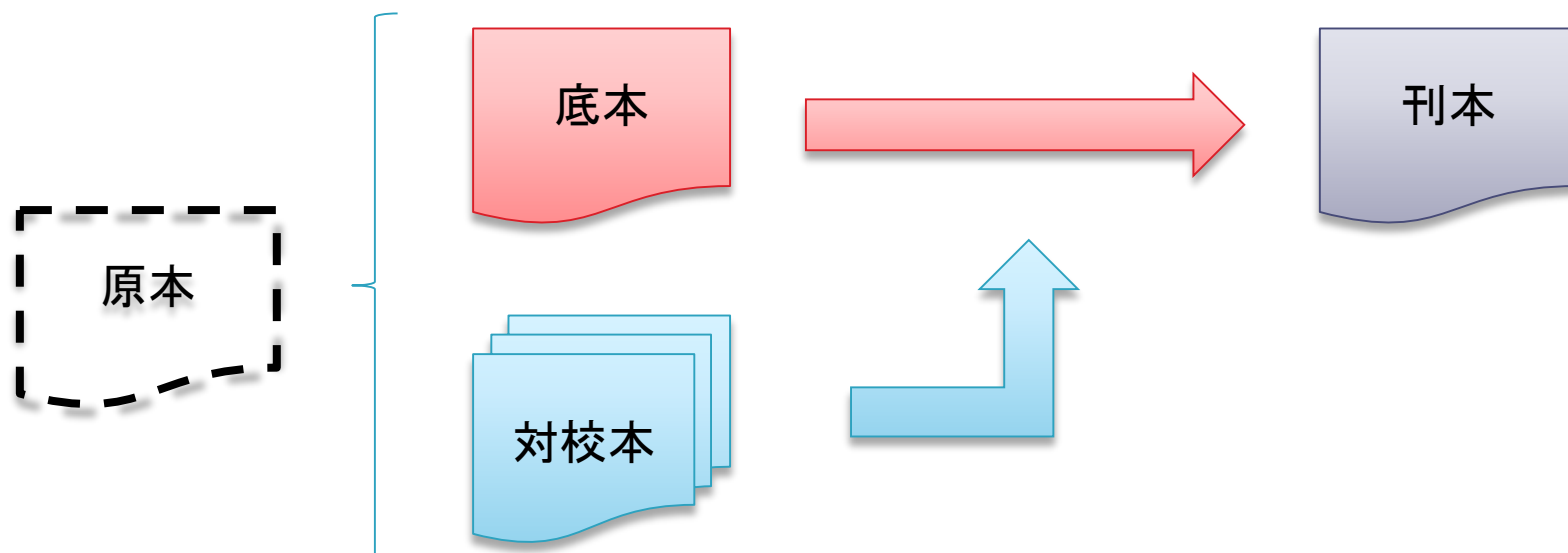
- ▶ ○○イ... ここは「○○」と書いてある本もある。「○○ア」というような書き方の場合、アの本には「○○」と書いているという意味→凡例を見る。
- ▶ 読み下し・現代語訳は、正しく意味の通る文になるように選択する。

前駆六人〔也イ〕

可延引之由雖□□
〔計奏イ〕

1. 史料集の見方

- ▶ 異同...この本では「〇〇」となっているが、他の本では「△△」となっている。
→ 異本が正しいこともある



1. 史料集の見方

- ▶ 衍(えん)文...本文に混入した余計な文。「」や傍線で示す。「衍力」などと書かれている。
- ▶ 読み下し・現代語訳には反映させなくて良い。

1. 史料集の見方

- ▶ △△カ...「〇〇」と書いてある(または欠失している)が、多分「△△」のこと。
- ▶ 読み下し・現代語訳は改めて良い。


1. 史料集の見方

- ▶ ママ...何かおかしいが、そのまま載せておく。
- ▶ 読み下し・現代語訳は、訂正できるなら訂正するか、そのまま訳して「ママ」と注記しておくなど適宜処理。

1. 史料集の見方

- ▶ 見せ消ち...字を抹消するのではなく、符号を付けて元の字はそのまま残す。
- ▶ 読み下し・現代語訳は正しい字に改めて良い。

右
中
弁
光
親
雅



1. 史料集の見方

- ▶ 国史大系の場合、①中黒（・＝異同）や②括弧（「」＝衍文）・③文字囲（□＝補った文字）などが校訂記号で、頭注を見ると漢文で詳細が書かれている。
- ▶ 記号は史料集によって違うが、上の3つを知っておけば多分対処できる。

2. 日本史特有の言葉とその調べ方

- ▶ i . 読み方が特殊
- ▶ 「明申」を調べる
 - ▶ → ×めいしん ×あきらかにもうす
 - ▶ → ○あきらめもうす
- ▶ 【問題点】読み方が分からないと調べられない
- ▶ 解決方法①ジャパナレッジ
- ▶ 解決方法②『日本国語大辞典』漢字索引
- ▶ 解決方法③『古文書古記録語辞典』などの漢字索引
「争」＝「いかでか」などが分かる。

2. 日本史特有の言葉とその調べ方

- ▶ ii. 漢文特有の定型句
- ▶ 「加之」(しかのみならず)
「職此之由」(もととしてこれにこれよる)など
- ▶ 【問題点】読み方と意味が特別。読解には重要。
- ▶ 解決方法①『漢文解釈辞典』(国書刊行会)・漢和辞典の語法解説
- ▶ 解決方法②『続日本紀』索引(岩波書店)
「加以」(しかのみならず)
「如聞」(きくならく)
など日本の漢文史料ならではの読みが分かる。
- ▶ 解決方法③ジャパンナレッジ

これは研究書でも間違えていることがある

▼ 職此之由

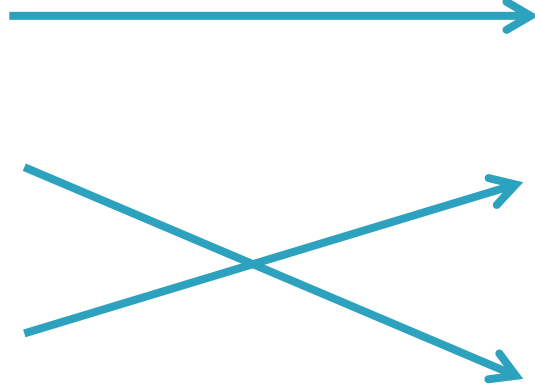
▼ × 職として此の由、

▼ ○ 職として此（これ）に之（これ）由る。

著作権の都合により
画像削除

正置

職
由
レ
此



倒置

職
此
之
由

←倒置した時、動詞と補語・目的語の間に挿入する原則。省略されることも多い。

2. 日本史特有の言葉とその調べ方

- ▶ iii. 記録体
- ▶ 公家日記や吾妻鏡などに用いられる文体。
 - 『古記録入門』・『古文書古記録語辞典』・『古文書学入門』・『日本国語大辞典』・『吾妻鏡必携』
- ▶ 「之由」(～とのこと・～と)・「之間」(～なので)・「之処」(～であるところ・～だが)・争(いかでか)・直也事(ただなること)・然而(しかれども)・為(として)・頃之(しばらくして)
- ▶ 来年の史料演習？・古文書学演習(1)(2)

2. 日本史特有の言葉とその調べ方

- ▶ iv. 候文
- ▶ 候間(～であるので)など独特の表現。
 - 『古文書大字叢』に意味が載っている。
- ▶ くずし字は辞典もある。
 - 運筆から引く＝『くずし字解説辞典』
 - 用例から引く＝『くずし字用例辞典』
- ▶ 用例辞典では読み方も載っている。
被下度候(くだされたくそうろう)
- ▶ 古文書学・古文書学演習(3)で学べる。

著作権の都合により
画像削除

- ▶ 『くずし字解読辞典』→ 運筆から引く
- ▶ 活字で読めないものもこれで分かる。



著作権の都合により
画像削除

- ▼ 『くずし字用例辞典』の「度」をみると「たい」という読みのあることが分かる。
- ▼ ある文字のくずし方を調べる。
- ▼ 一文字分かったとき用例から調べる。

- ▶ 『くずし字用例辞典』の「被」を引くと用例がたくさん出てくる。
- ▶ 『くずし字解説辞典』・『くずし字用例辞典』はCD-ROM版もある。

著作権の都合により
画像削除

被_レ為_レ成
らし
せ
な
う

←為は「す」(現代語の「する」)と読み、活用して「せ」と読む。被為在(あらせられ)も同様。

為_ニテ
ト

←「—と為(し)て」も同様。

3. パソコンの活用

- ▶ ジャパンナレッジ
- ▶ 中央大学が契約しているデータベース
<http://www2.chuo-u.ac.jp/library/databasetop.htm>
- ▶ 国立国会図書館
<http://opac.ndl.go.jp/>

3. パソコンの活用

- ▶ 史料編纂所データベース
<http://www.hi.u-tokyo.ac.jp/index-j.html>
- ▶ 横断検索
- ▶ 検索結果で「画」や「刊」をクリックすると画像が表示される。されないものは検索結果をもとに書籍でチェック。

3. パソコンの活用

- ▶ 古事類苑ページ検索システム
<http://www.nichibun.ac.jp/>
- ▶ 史料百科事典。様々な事項に関する史料が網羅されている。卒論で必ず使う。

4. ゼロからの漢文入門

▶ 漢文を学ぶ意義

日本では漢文の素養がずっと重視されてきた。

→ 残された史料にも反映＝時代を問わず必須

- ▼ × 無之大騒動(だいそうどうこれなし)
- ▼ ○ 無之大騒動(これなきだいそうどう)

著作権の都合により
画像削除

4. ゼロからの漢文入門

- ▶ 漢文史料における文体の変化
- ▶ 古代：正格漢文（純粹漢文）・記録体
- ▶ 中世：変体漢文（和化漢文）＝前期：記録体・後期：候文
- ▶ 近世：変体漢文（和化漢文）＝候文
- ▶ 近現代：公用文は候文や漢文読み下し調

4. ゼロからの漢文入門

- ▶ i . 漢文の世界に慣れる
- ▶ 蔡志忠「マンガ中国の思想シリーズ」(講談社)
- ▶ 気に入った故事名言の白文と読み下しを暗記する。
これだけでも違いが出てくるはず。

4. ゼロからの漢文入門

- ▶ ii. 【上級編：古代史】中国古典を読む
- ▶ 「中国の思想シリーズ」(徳間書店)
『史記』・『十八史略』・諸子百家
現代語訳がうまい。
- ▶ 最初は現代語訳だけで良いので、繰り返し読む。これは時間をかけてよい。白文・読み下しは飛ばす。
- ▶ 慣れたら白文を見て読めるか試してみる。
→ 読めたらもう大丈夫
- ▶ 『漢文解釈辞典』で文法面を補強。

4. ゼロからの漢文入門

- ▶ iii. 【中近世】
- ▶ 入門書と演習で勉強。量をこなして慣れることが近道。

おわりに

- ▶ 上達するためには、分からないことは質問することと、とにかくたくさん史料を読むことが必要。
- ▶ なぜそう読むのか考えながらたくさん読む。